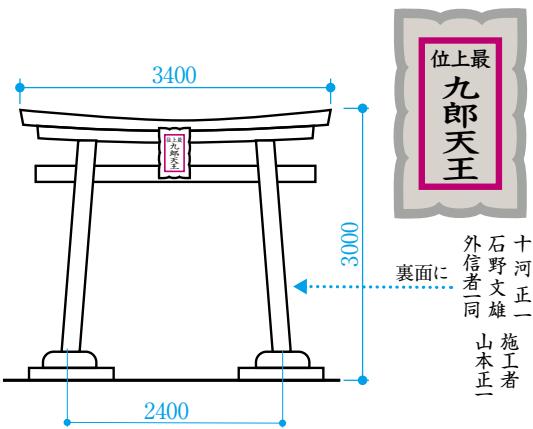


## 26 九郎稻荷宮址

九郎天王と金崎天王を祀っていた社(平野789)

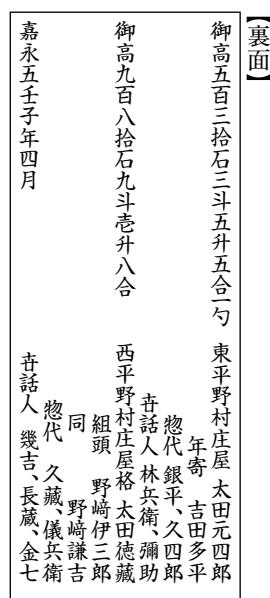


この社はもと庭瀬八幡の参道右に鎮座していたが、平野村の懇請によって嘉永5年(1852)、金崎宮のあった所へ遷座した。(きびのさとNo.55より)

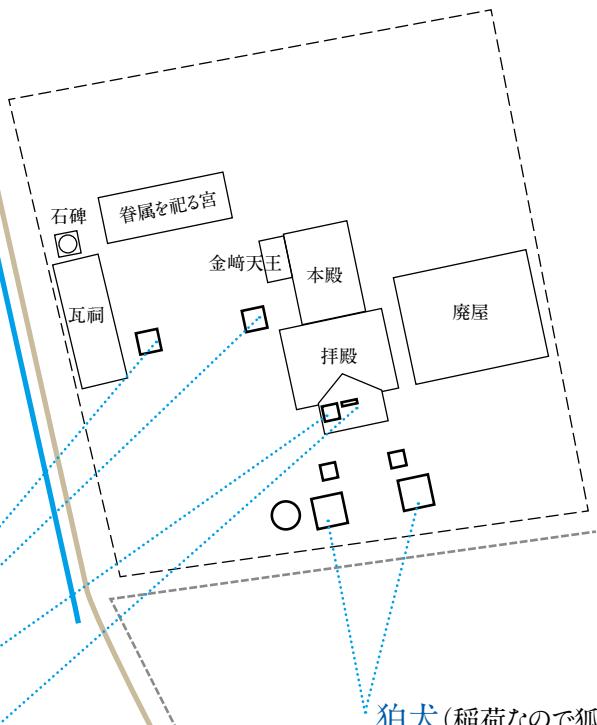
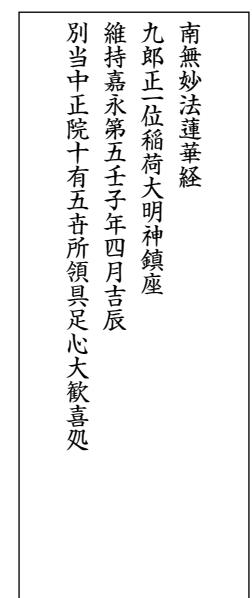
しかし昭和30年代以後(時期不明)、再び八幡神社内に戻された。令和7年現在、境内は樟樹と竹が繁茂し、荒れ果てた状態である。しかし150mほど南にある鳥居は開発の波をくぐりながらも堅固に保存されている。



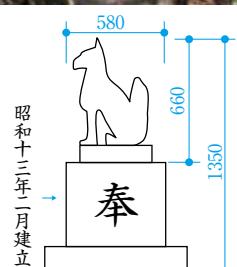
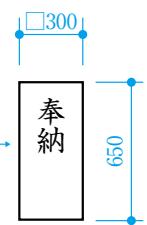
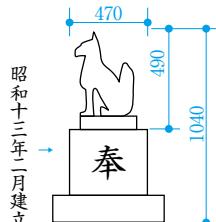
宮内の棟札(木板)の銘(きびのさとNo.55より)…未確認



縦43×横22cm



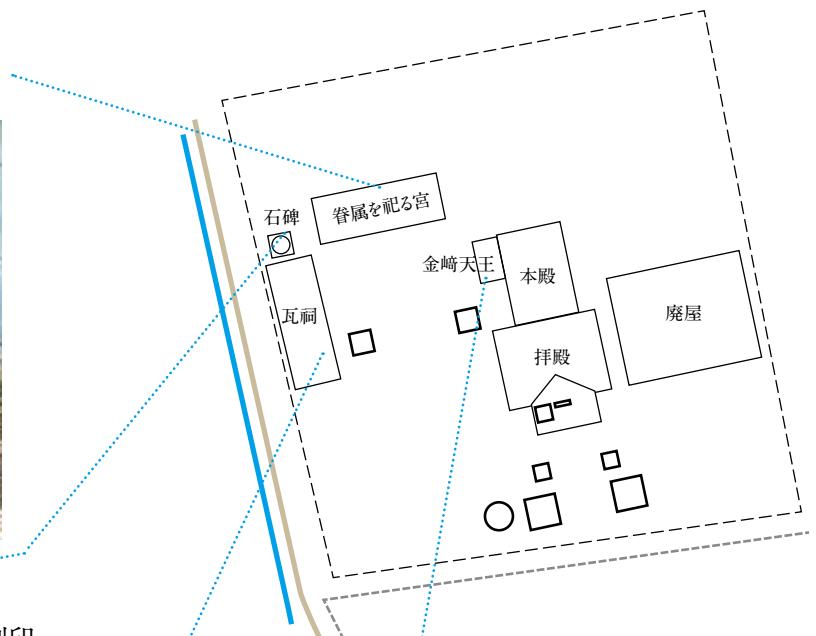
狛犬(稲荷なので狐)



線香立

社号扁額





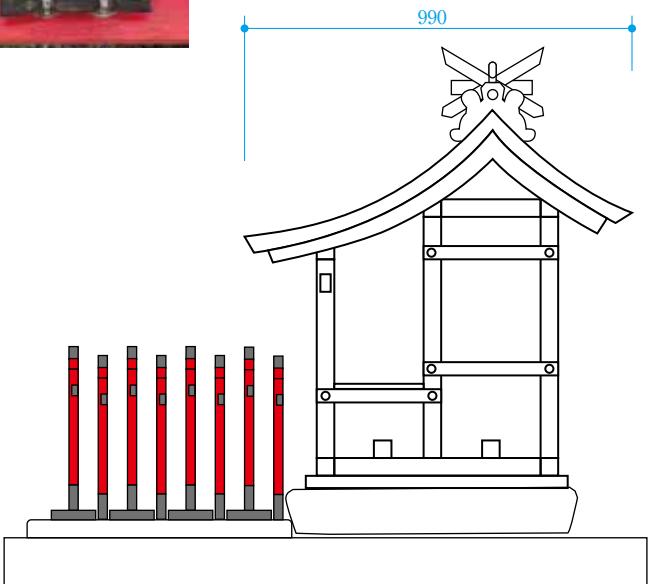
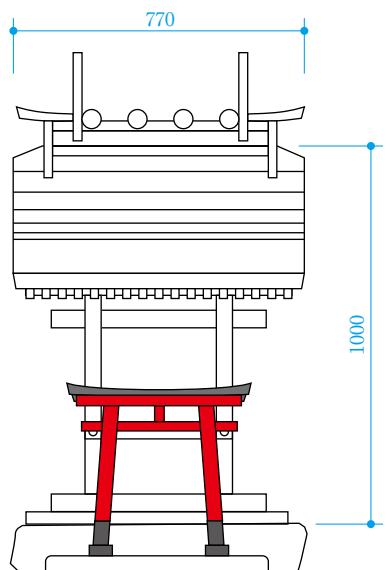
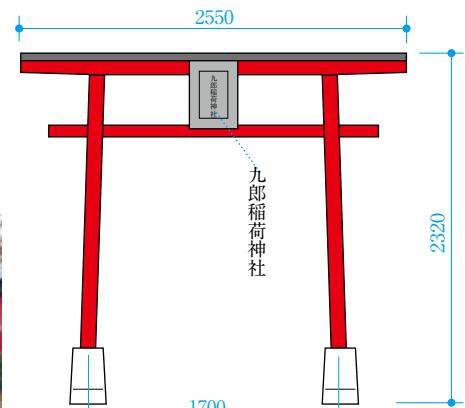
住宅街の中に樟樹の繁茂する境内を南側から臨む



最正位金崎天王



## 庭瀬八幡様に遷座された稻荷宮



## 九郎稻荷神社の謂われ

戦国時代の事、佐久間甚九郎と名乗る武士がいた。彼は宇喜多家再興のため岡山に潜入し、当地を偵察している最中、多数の暴漢に襲われ窮地に陥った。その時、天から靈光が燐然と輝き白狐の声が轟いたため、暴漢はその場にひれ伏し、基九郎は九死に一生を得て脱出に成功した。

今も、岡山市北区天神町には「甚九郎稻荷神社」が祀られており、備中平野村に住む熱心な信者が小字「九の庄後」に勧請したとされる。

鳥居は本殿敷地の南東に在ったが、昭和3年の「御大典記念」で庭瀬駅から八幡神社までの直線の参道(通称経道)の整備に伴って現在地に移転され、今日に至っている。

諸々の事情により2000年頃、「九郎稻荷」の御本尊を八幡神社の隣接地に遷座することになったが、鳥居だけ残った形である。